

議会報告会（正・副委員長報告）

報告者 納所輝次委員長

志田一宏副委員長

委員会名	教育福祉常任委員会
開催日時	令和4年（2022年）2月22日（火） 午前9時30分から
開催場所	議会全員協議会室
出席議員	志田一宏副委員長、後藤吾郎委員、藤本あさこ委員、竹田ゆかり委員、 前川綾子委員、吉岡和江委員 ※納所輝次委員長は、病気のため欠席。
報告内容	<p>（件名及び審査概要）</p> <p>委員会では、請願1件、陳情4件、報告事項7件について審査が行われました。そのうち、報告事項「かまくらULTLAプログラム等の取組状況について」、及び報告事項「鎌倉国宝館等を中心とした歴史・文化の価値や魅力の創造について」についての審査の結果と概要を報告します。</p> <p>報告事項「かまくらULTLAプログラム等の取組状況について」</p> <p>（資料1ページ） かまくらULTLAプログラムは、不登校または休みがちであるなど学校に通うのがつらいと感じている児童・生徒を対象とした探求プログラムで、参加者一人一人が鎌倉の地域特性を生かしたプログラムを通して、個性や特性に応じて自分らしく学んでいく方法を見つけていくことを目指すものです。</p> <p>令和3年（2021年）9月下旬から、チラシの配付、保護者向けのメール、市ホームページおよび広報かまくらなどにより本プログラムの周知を行うとともに、同年9月27日に特設サイトにて登録受付を行ったところ、31名の登録があったとのことです。</p> <p>（資料2ページ） 同年10月27日、10月28日および12月11日の3日間で浄智寺において実施された「森のプログラム」では、身体活動や竹を研究して楽器を作るなどの活動が行われ、15名の参加があったとのことです。</p> <p>（資料3ページ） また、同年11月12日、11月13日および11月20日の3日間で由比ヶ浜海岸および榑カヤックの会議室において実施された「海のプログラム」では、地引網や3Dプリンタを使った寿司のシャリ型づくりなどの活動が行われ、15名の参加があったとのことです。</p> <p>今後は、本プログラムでの学びの成果を生かせるよう、対象児童・生徒の所属する学校へ情報共有を行うとともに、事業評価に取り組むとのことです。</p> <p>委員会では、報告事項について了承されました。</p>

報告事項「鎌倉国宝館等を中心とした歴史・文化の価値や魅力の創造について」

(資料4ページ) 鎌倉国宝館および鎌倉歴史文化交流館では、令和4年(2022年)1月から始まった大河ドラマ「鎌倉殿の13人」の放送を契機に、北条氏展の開催や観覧料の軽減措置等の取組みを行い、本市を訪れる多くの方々に歴史的遺産や文化をより身近に感じていただくとともに、鎌倉のあらたな魅力に触れ、本市への愛着を深めていただくことを目指しているとのことです。

(資料5ページ) 北条氏展では、大河ドラマの主人公である北条義時公などを中心とする特別展示や講座を両館で連携を行いながら実施するとのことです。

(資料6ページ) 併せて、史跡北条義時法華堂跡で、御堂の外観および内部の復元モデルを湘南工科大学と協働で開発したARアプリにより現地で鑑賞できるような体験を通じた取組を行うなど、北条義時公ゆかりの史跡地の整備などの公開活用の推進も図るとのことです。

(資料7ページ) また、観覧料の軽減措置については、両館の観覧料の全額免除や無料化の対象を拡大し、令和4年3月1日から令和5年3月31日までの間、大河ドラマ館の利用者を対象に、両館の入館料を1回限り実質無料とする取扱いを実施するとのことです。

さらに、市内在住者または市内在学者等を対象に、令和4年4月1日から恒久的に入館料の実質無料化を実施し、博物館施設を観覧しやすい仕組みを作り出すことで施設の活性化を進めるとともに、市民全員が郷土の先人の歴史や文化を身近に感じ、歴史的遺産と共生するまちづくりの主体であることを再認識し、また、子どもたちが郷土の歴史や文化に誇りや愛着を持って成長し、将来のまちづくりの主役となることを期待するとのことです。

委員会では、報告事項について了承されました。